

## ドイツ語、外国語活動及び外国語科、英会話保護者アンケート集計結果から

今回の結果から、今後改善する方向性や考え方をお知らせします。

### ○ ドイツ語について

1 「とても実践的だと思いました。子供達もドイツ語の授業が楽しいそうです。家でも楽しそうに口ずさんだり兄弟でやりとりをしたりとこの短期間での伸びにとっても驚いています。」

◆ 温かいお言葉ありがとうございます。子どもたちが継続してドイツ語が好きになるよう努力していきます。

2 「昨年よりもレベルが上がっているのが見えてよくわかった。」

◆ 今後もネイティブの教師と日本人教師が連携しながら子どもたちの能力に応じた指導を心掛けていきます。

### ○ 外国語活動及び、外国語について

1 「昨年と同じ内容だった。同じことを繰り返すのも大事だが、進歩が見て取れなかった。」

◆ 本校の英会話の学習は、学習指導要領に基づいて、中学年が外国語活動（週に1時間）、高学年が外国語科（週に2時間）として行っています。よって、中学年は「教材」を、高学年は「教科書」を中心に学習を進めていくことが求められます。本校では、帰国することを前提に教科書等を確実に履修する観点から複式学級であること、また、日頃の子どもたちの頑張りの成果で学習進度が速いことを踏まえ、1年間で約2年間分の内容を扱っています。また、2名のネイティブの教師がそれらを用いて授業することに加え、発展的な内容や言語活動に取り組みせています。その結果、本校の特色として教科書の内容だけに留まらず、異文化理解の促進や英語音声に慣れ親しませることができています。

2 「テキスト通りでなくても子供たちが日常で活用できる内容が取り入れてもらえるとうれしいです。」

◆ 貴重なご意見ありがとうございます。英会話の教師と相談しながら、授業の最初に「自分の考えや気持ちを伝え合う対話活動」を取り入れるなど、日常会話の時間を効果的に取り入れていけるよう努力していきます。

3 「子供の理解度が低く、対話が難しかった。レベルの差もあるので、ドイツ語の様にレベル別の英会話としてのクラスなどもあるといいと思う。」

◆ 外国語活動、外国語科として学年別教科指導（本校は複式学級で実施）を行っているため、ドイツ語のように学年を混ぜ、レベル別に行うことができないのが現状です。本校の特色ある教育活動として、高学年以上では、週に1時間、ネイティブによるオールイングリッシュの授業を実施しています。その授業では、教師2名のチームティーチングで実施していますので、T2で入る日本人教師が日本語に訳するなどして、レベル差に応じて個別に対応するなど、指導法を工夫したいと思っております。

4 「少人数のため発言発表の機会も多く、学ぶに良い環境だと思います。ただ、子供達にはその利点を最大限活かして、もっと積極的に参加してくれればなあ、と少し勿体なく感じました。(恥ずかしがっていたのも多分にあるかとは思いますが)」

◆ 貴重なご意見ありがとうございます。さらに、子どもたちが自信を持って「英語を使ってみたい、話したい!」と思えるように、これからも授業改善に努めていきます。